



「あらかわの心」ニュース

〔発行〕「あらかわの心」推進運動区民委員会
〔事務局〕〒116-8501 荒川区荒川 2-2-3 荒川区子育て支援部児童青少年課内 TEL 3802-3111 内線 3833 FAX 3802-0809
〔メールアドレス〕 arakoko@city.arakawa.tokyo.jp 〔ホームページアドレス〕 http://www.city.arakawa.tokyo.jp/kosodate/index.html

特集号 平成23年3月31日発行

インタビュー特集号

「あらかわの心」推進運動区民委員会は、「心をつなぐ5つの取り組み」の実態調査を行うため、当委員会に所属する全団体に對してアンケート調査を実施しました。このなかで、子どもと大人が交流する活動や行事を行っているという回答のあった団体に、当委員会幹事がその内容について聞き取り調査を行いました。今回の特集号で、そのご報告をします。

※「あらかわの心」推進運動とは：
「3つの視点」
（まず大人が行動する・大人が子どもと一緒に行動する・地域ぐるみで大人が子どもを見守り育てる）に基づき、「心をつなぐ5つの取り組み」(あいさつ・きまり・思いやり・体験・見守り)を実践することを通して、大人も子どもも互いに尊重し、共に生きる地域社会の実現を目指す区民運動です。

区内の学校や各種地域団体、官公署等80以上の団体が参加する「あらかわの心」推進運動区民委員会が中心となり、活動しています。また、当委員会の幹事は、構成団体等の代表者又はその推薦による方々です。

① 東京リバーサイドロータリークラブ (回答者、松本 繁夫幹事)

Q 活動名は何ですか。
A 「インターアクトプロジェクト」とい、全世界で14〜18歳の青少年が対象となる活動です。
Q 活動内容を教えてください。
A 「北豊島学園(中学・高校)の生徒でインターアクトクラブ会員10数名と東京リバーサイドロータリークラブのメンバーが数名で、清掃活動をしています。月に1回、不定期の火曜日に①北豊島学園↓首都大学東京(熊野前)と②北豊島学園↓都電通リ↓町屋二丁目電停の2方向に分かれて、30〜40分程かけて清掃します。」
Q その活動はいつからですか。
A 「インターアクトクラブは平成13年に発足し、清掃活動は平成16年頃からです。」
Q 活動の動機は何でしょうか。
A 「開始当時の北豊島学園理事長が、東京リバーサイドロータリークラブのメンバーであり、生徒たちの自己形成を促すことを目的として始めました。」
Q 活動の効果を教えてください。
A 「ボランティア精神の向上と共に、人前での発表力や積極性が増し、将来、海外で看護師になりたいという生徒まで現れました。」
Q 今後、どのようにお考えでしょうか。
A 「今後も希望を持って続けていきたいと思えます。」



② 三河島母の会 (回答者、小澤 よし子会長)

Q 活動名は何ですか。
A 「スクールバトロールです。」
Q 活動内容を教えてください。
A 「母の会会員が、毎月2回、第2・第4火曜日に荒川警察署と連携して、ひぐらし小学校や第五峽田小学校など13校の児童を安全に家まで送り届けています。」
Q その活動はいつからですか。
A 「10年目になります。」
Q 活動の動機は何でしょうか。
A 「当時子どもの事故が多かったので、これを防ごうと思ったからです。」
Q 活動の効果を教えてください。
A 「当初は、子どもたちを家まで送っていくとげげんな顔で見られることもありましたが、今はお礼を言っていたりするようになり、やっついて良かったです。」



③ 尾久橋町会 (回答者、田村 正彦会長、皆川 宏副会長)

Q 活動名は何ですか。
A 「親子フェスタです。」
Q 活動内容を教えてください。
A 「町会が中心となって、主に熊野前保育園や尾久小学校、尾久八幡中学校の児童・生徒が参加して、尾久橋町会会館で射的やボーリングをしたり、シンセサイザーの演奏を聴いたりします。年に1回の開催で、平成22年度は手作りポスターでご案内し、12月19日(日)に実施しました。」
Q その活動はいつからですか。
A 「平成21年から、今回で2回目です。」
Q 活動の動機は何でしょうか。
A 「新しい町会会館ができたのを機に、我が町を愛する子どもたちを育成し、これを継続していくと思ったからです。」
Q 活動の効果を教えてください。
A 「町会の人々が互いに親切になり、町会全体がまとまってきたと感じます。」
Q 今後、どのようにお考えでしょうか。
A 「親子フェスタと現在継続中の『尾久初空襲を忘れないコンサート』を続けながら、『ふれあいボリス』『いきいきサロン』『東京初空襲の講演会』などの行事も計画しております。」



④ 西口暮里五丁目町会 (回答者、伯耆原 正副会長)

Q 活動名は何ですか。
A 「自然体験教室です。」
Q 活動内容を教えてください。
A 「町会の青少年体育部員が中心となって、保育園の園庭などをお借りして、カマドを3つ作り薪で火をおこし、飯ごうや鍋を使用してご飯やカレーなどを作ります。」
Q その活動はいつからですか。
A 「平成20年からです。」
Q 活動の動機は何でしょうか。
A 「地域の子どもたちを中心に、カマドの作り方を2通り教わったり、薪の火で飯ごうを利用したり、ご飯が炊けるのを見たりするなどの体験をしてもらいたいと思ったからです。」
Q 活動の効果を教えてください。
A 「こうした経験の無い子どもたちが多いため興味深く感じ、最後は食事でもできるため数多くの子どもたちが参加してくれています。」
Q 今後、どのようにお考えでしょうか。
A 「災害時には必要となる場合が考えられるので、子どもだけでなく大人も体験できればと思います。子どもから大人まで参加してもらい、さらに楽しく学べるような事業にしていきたいと考えています。また、子どもたちが、飽きることなく楽しい時間を過ごせるような雰囲気を作っていくことも必要だと思います。」



心の東京革命とは、次代を担う子どもたちに対して、親と大人が責任をもって正義感や倫理観、思いやりの心を育み、人が生きていく上で当然の心得を伝えていく取組です。

⑤ 荒川区立第一日暮里小学校 P.T.A

(回答者、鈴木 由起枝さん)

- Q「活動名は何ですか。」
- A「すわの森コーラスです。」
- Q「活動内容を教えてください。」
- A「すわの森コーラス隊の親子が、ひぐらしサービスセンターを訪ねて、お年寄りにコーラスを聴かせたり、一緒に歌ったり、手遊びをしたりします。」
- Q「その活動はいつからですか。」
- A「平成18年からです。」
- Q「活動の動機は何でしょうか。」
- A「地域との交流を深め、ご年配の方と子どもたちとの歌を通して自然なふれあいの場を持つことができればと考えました。」
- Q「活動の効果を教えてください。」
- A「コーラス隊の親子もお年寄りたちも、共に楽しく充実したひとときをもちました。」



Q「今後、どのようにお考えでしょうか。」

A「これからも定期的にこの活動が続いていきたいと思います。」

⑦ 二峡教育ボランティア

(回答者、第二峡田小学校 枘三知代校長)

- Q「活動名は何ですか。」
- A「放課後教室です。」
- Q「活動内容を教えてください。」
- A「『学校に何か還元したい』と申し出た校庭利用団体や、子どもたちのためにボランティア活動を行うと登録された二峡教育ボランティアの方々へ指導してもらいます。カルタ・英語・アロマテラピー・漢字検定・習字・タンブリングキッズなどです。」
- Q「その活動はいつからですか。」
- A「3年目になります。」
- Q「活動の動機は何でしょうか。」
- A「テレビゲームなどをせずに子どもが充実した放課後の過ごし方を充実させ、やる気を育てたいと考えました。」
- Q「活動の効果を教えてください。」
- A「放課後、毎日子どもたちの声が響いており、授業にも前向きな姿勢になったと感じています。学校内での活動なので、安心感もあると思われれます。」
- Q「今後、どのようにお考えでしょうか。」
- A「もっと多くの児童にこの活動への興味や関心を持ってもらいたいです。特に1年生に参加を促そうと思います。さらに、23年度より開設される『ここにこそくーる』とも連携して充実させていきたいと思います。」



⑥ あらかわ冒険遊び場の会

(回答者、鹿熊 正剛さん)

- Q「活動名は何ですか。」
- A「プレイパークです。」
- Q「活動内容を教えてください。」
- A「荒川区在住者を中心とした本会会員が、主に西日暮里公園で『ケガと弁当は自分持ち』を前提に、自然の中にあるものを利用して子どもたちと自由に遊びます。たとえば、高い木に登ったり、ロープワークをしたり、廃材を使って自由に工作物を作ったりするなどです。世田谷区にある羽根木公園はプレイパーク活動が根付いていて、規模も大きく充実しているの参考にしていきます。」
- Q「その活動はいつからですか。」
- A「平成21年5月からです。」
- Q「活動の動機は何でしょうか。」
- A「子どもたちの、自身の力で遊びを作り出す能力を引き出そうと思っただけです。」



Q「活動の効果を教えてください。」

A「まだ始まったばかりで成果は判断しづらいのですが、子どもたちが公園で遊んでいる姿は自然の中でたくましく見えます。」

Q「今後、どのようにお考えでしょうか。」

A「私たちの趣旨に賛同してくれるメンバーを増やし、区と連携した活動にしていきたいと思っています。」

⑨ 南千住第二幼稚園

(回答者、桑原 淳子園長)

- Q「活動名は何ですか。」
- A「おはなし広場です。」
- Q「活動内容を教えてください。」
- A「保護者(お母さん)が子どもに、絵本の読み聞かせをしながら、心を通い合わせるひとときを過ごしています。」
- Q「その活動はいつからですか。」
- A「平成20年からです。」
- Q「活動の動機は何でしょうか。」
- A「親がお話を話してくれたら、絵本を読んでくれたりした原風景は、必ず幸せな記憶として心に残ると思います。絵本の読み聞かせの大切さや楽しさを、お母さま方に感じていただき、さらに親子の絆を深めてほしいと考えています。」
- Q「活動の効果を教えてください。」
- A「子どもたちは、絵本やお話が大好きで、イメージをめぐらせながら楽しんでいきます。お母さん自身が絵本を好きになり、読み聞かせの大切さを実感している方もいらっしゃいます。」
- Q「今後、どのようにお考えでしょうか。」
- A「日々の読み聞かせとともに、絵本ボランティアや絵本ライブなども交えながら、お話を夢中になって楽しめ、心豊かな子どもに育ってほしいと思います。いつか大人になって子どもに絵本を読んでもあげてほしい。情報化が進む中、ぬくもりのある絵本の文化がずっと伝承されていくといいなと思います。」



⑧ 第五峡田小学校

(回答者、学校図書館指導員 戸澤 雅重さん)

- Q「活動名は何ですか。」
- A「保護者のボランティアによる読み聞かせです。」
- Q「活動内容を教えてください。」
- A「保護者のボランティアが、毎月2回のスケジュールを組んで全学級に行き、『朝読(朝の読書時間)』で10分間、本の読み聞かせを行っています。」
- Q「その活動はいつからですか。」
- A「始まってから10年近くになります。」
- Q「活動の動機は何でしょうか。」
- A「1年生のクラスが落ち着かなかつたのが、きっかけでした。」
- Q「活動の効果を教えてください。」
- A「児童は、自分のお母さんや友人のお母さんたちに本を読んでもらえるので、親近感をもって聞くことができ、感動を素直に表すようになりました。また、ボランティアの方が様々な視点で読む本を選ばれるので、児童の興味の幅が広がり、いろいろなジャンルの本を借りるようになりました。さらに、保護者にとっても、学校に入りやすい雰囲気になりました。」
- Q「今後、どのようにお考えでしょうか。」
- A「ボランティアの人数が減ってきている中、存続が気がかりですが、良い活動なので今後も続けていきたいと思います。」



⑩ 第一日暮里小学校

(回答者、濱上 悦子校長)

- Q「活動名は何ですか。」
- A「一日小まつりです。」
- Q「活動内容を教えてください。」
- A「一日小の児童会、P.T.A、P.T.A O.B会(一日会)や日暮里地区の各町会、体育指導委員会日暮里地区部会、荒川消防署が、各団体ごとにブースを設け、そこで模擬店、パズル、ゲームコーナーなどを行い、子どもたちがスタンラリーをしなごら回り得点を競います。」
- Q「その活動はいつからですか。」
- A「記録があるのは、平成6年頃からです。」
- Q「活動の動機は何でしょうか。」
- A「一日小が創立110周年を迎えるにあたり、その前年の平成6年度からP.T.Aの主催で始まったということですが、(100周年の頃に始まったという話もあります。)」
- Q「活動の効果を教えてください。」
- A「年々盛んになり、参加団体も増えてきました。学区域外からの参加も多くなり、平成22年度には500人以上の来場者がありました。」
- Q「今後、どのようにお考えでしょうか。」
- A「安全面の対策を考慮に入れて、伝統行事となるよう継続していきたいと思っています。これからも学校、P.T.A、地域が一体となって行事を行うことにより、愛校心がさらに深まってくものと思われまます。」

